

2022年5月15日（日）

実践研究へのいざないⅣ 質的研究法を問い直す

指定討論者：榎沢良彦

W.ディルタイ

○自然科学

本質：（認識が生み出した、人間主体を越えた） 客体・説明

○精神科学

本質：体験・表現・理解（⇒戸田：理解的方法）

* W.ディルタイ 『精神科学における歴史的世界の構成』 以文社

G.W.オールポート

○法則定立的な研究（⇒量的研究、中坪：処方的問い）

一般法則

○個性記述的な研究（⇒松永：エスノグラフィー、
中坪：記述的問い）

個別的なものについての生きた知識

人間性に対する知識の源泉（≡人間本質）

* G.W.オールポート 『心理学における個人的記録の利用法』 培風館

科学的研究で重視すること

- ・ 検証可能性
- ・ 再現可能性
- ・ 反証可能性

⇒ 方法的な手続きが明確であることを求める。

- ・ 客観性

精神科学が重視すること

- ・ 客観的精神

精神が客観化したもの（＝あらゆる表現）

我と汝に共通に当てはまるものが含まれている。
（＝**共同性**）

＊ W.ディルタイ 『精神科学における歴史的世界の構成』 以文社

科学は客観的か？

完全な帰納法はない

心理学者は何らかの理論枠組みを持って事実を集めている。
⇒先入主（先入観）を持って研究している。

〈完全な帰納法〉

先入主や仮説により毒されていない精神で証拠を積み上げて理論を導き出す。

* G.W.オールポート 『心理科学における個人的記録の利用法』 培風館

主観的認識には妥当性はないか？

○職人技

マスターピースが作れる。

⇒鍛えられた主観性

○科学技術

誰でも一定の質の製品が作れる。

⇒平凡な主観性

研究の有用性

○自然科学

現象の説明（法則の提起）⇒役に立つ。

○精神科学（質的研究）

客観的精神の理解⇒役に立たない？

本日のテーマに関わる論点

(1) 客観性について

- ・ 質的研究において客観性は必要ないか？

(2) 先入観は排除すべきか？

(3) 質的研究が目指すことは何か？

- ・ 質的研究で大事なことは何か？
妥当性？、一般性？